



民話語り部体験が
始まりました

山形大学フィールドプロジェクト「民話語り部体験」が始まりました。今年度も山形大学の三年生十八名が五月と六月の週末四日間、様々な体験を行います。



報 告 館 資 料 里 鶴 夕
日 元 年 和 令 5 月 2 0 日
第 1 0 1 号
発 行 夕 鶴 の 里
TEL 4 7 - 5 8 0 0

その中でも語り部体験講座は講師の先生に民話をご指導いただき、民話語りを覚える体験です。

学生さんは初日から「子供達にわかりやすく伝えるにはどうすればいいか」「語りの途中で質問されたらどうすればいいか」など積極的に講師の先生に質問していました。

練習の成果は実際に山形市内の学童保育で口演する予定です。



花いっぱい運動

今年も花いっぱい運動が始まり、色とりどり花の苗が届きました。皆さんをお出迎えするため、プランターに職員が心を込めて植えました。



第十回

「おきたま語り

フェスティバル」

◆日時：六月十六日（日）

午後一時～

（午後三時三十分終了予定）

◎第一部

◇大人の語り・寸劇

◇子ども語り

◎第二部

昔ばなし&トーク

ゲスト小林幸子さん

（川西昔ばなしの会）



◆会場：夕鶴の里

語り部ホール

◆入場料：無料

◆主催：おきたま語り部の会

◆お問い合わせ

夕鶴の里

TEL 四七・五八〇〇

（おきたま語り部の会事務局）

※当日は、駐車場の混雑が予想されますので、無断駐車はご遠慮下さい。

お蚕様が

やってくる

今年も六月上旬からお蚕様を飼育します。

置賜地方で養蚕が盛んに行われるようになったきっかけは米沢藩第九代藩主上杉治憲(鷹山)が困窮していた藩の財政危機を打開するための産業政策でした。

享和二(一八〇二)年には
ようさんてびき

『養蚕手引』というこの地域の気候風土にあった蚕の飼育方法を作成して領内に配布するなど、藩を挙げて養蚕業に力を入れており、この地方と深い結びつきがあります。

当館でもお蚕様を飼育します。ご来館の際は是非ご覧頂ければと思います。



昨年の飼育の様子

宮内高等女学校の

言語騒動

「民話語り部体験」では学生の皆さんは慣れない置賜地方の方言に苦戦しているようでした。特に他県出身の学生にとっては方言で話すことは大変かと思えます。

宮内高等女学校(現在の南陽高等学校)では開学当初から、東京や仙台など都市部で勉強したり、教鞭を取っていたりしていた先生を招聘して活していた先生が宮内に来て驚いたのはこの土地の方言でした。女性が「おら」や「おめえ」などの言葉を使うのは如何なものかというところで、言葉遣いを共通語に改めるようにしようとしたことがありました。

ところが、女学生の家庭では、娘が学校から帰宅すると突然

「お父様、お母様」

と共通語を話すようになったことに驚き、村の友人からは生意気になったと非難されるようになってしまいました。

学校には保護者から「土地の生きた言葉がある」と反対

意見が寄せられ、学生からも標準語は校内だけにしてもらいたいと要望があり、学校は方言を理解、習熟した上で難解な言葉や下品な言葉以外の使用を許可したということがありました。

山形県では昭和の初め頃から郷土教育が始まり、郷土愛を育む取り組みが行われるようになりました。そういった経緯から、方言も昔から伝わる数々の長所や美点があることが理解されるようになり、方言使用も認められるようになったようです。



宮内高等女学校 刺繍布
-現在、資料館で公開中-

〈参考文献〉

『山形縣教育史』
山形県立宮内高等学校『創立五十周年記念誌』

お願い

貸館について

○ 昨年の施設貸出時に暖房の消し忘れやトイレの電気・換気扇消し忘れ、トイレの洗面所の水の出し放し等の不備が多々ありました。使用団体に注意を促しましたが、改善されませんでしたので、

休館日前日の日曜日の夜間使用は貸出をご遠慮いただきます。

ご了承いただければと思います。

○ 当館ではこれからイベントが多くなり駐車場の混雑が予想されます。他の来館者の妨げにならないよう無断での駐車はご遠慮ください。やむを得ず駐車する場合は当館へ電話等で必ずご連絡頂くようお願い致します。

